

平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	04	01	07	0406	在来生物対策事業	
総合計画	分野	暮らし				
	政策	2-1	環境の保全			
	施策	2	自然環境の保全			
目的	ゼニタナゴ生育環境の整備					
対象	矢沢地域の自然保護を考える会					
意図	ゼニタナゴの生育環境を整備する。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○水路2面装工（柵渠） L=16.7m（全体L=70.7m）						
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（県基金）導入 材料支給、重機借上により地元組織（矢沢地域の自然保護を考える会）が主体となり実施						
市民参画の有無 【 対象外 】						
市民協働の形態		○ 共催 後援・協賛		実行委員会・協議会 補助・助成		
				事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①	水路整備延長	m	計画	24	18	
			実績	24	16.7	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
①			目標			
			実績			
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
希少生物（ゼニタナゴ）の保護のためのピオトープ施設について、素堀側溝の補修を行い、ゼニタナゴの生育環境を整備した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	水路の管理については行政が行う必要があり、県は土地改良施設として整備した施設の補修費として、市に対して支援する。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	計画的な修繕を行うことにより、施設の維持管理が容易となる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない <input type="checkbox"/>	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費は施設補修にかかる材料と重機借上料であり、削減余地はない。 労力は地元からの協力を得るものである。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	希少生物であるゼニタナゴの保護が図られるので、公平・公正である。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
ゼニタナゴを保護するため、市から材料支給と重機借上の支援を行い、矢沢地域の自然保護を考える会と協力し、環境を整備することにより、永続的な保全に努めるものである。 平成25年度から3年間で実施された本事業は、当初の計画通り完了し、目的を達成することが出来た。		

平成 27 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部門 **市民生活部** 課名 **生活環境課** 担当係長 **似内 泉** 内線 **255**

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	04	01	07	0406	在来生物対策事業

単位：千円

		26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,000	924		△ 76
財源内訳	国・県	1,000	924		△ 76
	地方債				
	その他				
	一般財源				

事業期間 単年度繰返 期間限定 [平成 25 年度 ~ 平成 27 年度]

部経営方針における目標
豊かな自然と生活環境を守り暮らしています

事業開始の背景・経緯
県営土地改良事業で整備され、市が譲与を受けた希少生物（ゼニタナゴ）の保護のためのビオトープ施設について、補修が必要となったことから、県基金事業を導入して整備した。

事業概要
○水路2面装工（柵渠） L=16.7m（全体L=70.7m）
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（県基金）導入
材料支給、重機借上により地元組織（矢沢地域の自然保護を考える会）が主体となり実施

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等
整備にあたっては、希少生物保護という観点から専門的な知識が必要であり、地元組織の協力が不可欠であり、また、地元からの要望に沿った形で実施することが必要である。

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

